



キャラ作成向け利用ガイド

部活動・サークル活動に所属する女子大学生ペルソナ集を「キャラクター構築資料」として使う方法

キャラクター作成で最も難しいのは、「設定を考えること」ではありません。

本当に難しいのは、「この人物ならこう考え、この人物ならこう行動しそうだ」と読者や視聴者に感じさせることです。

名前、年齢、所属、趣味などの設定を並べることは比較的簡単です。しかし、それだけでは人物は立体化しません。

人物が活着ているように感じられるのは、

- ・何を大切にしているのか
- ・何に悩んでいるのか
- ・どんな経験をしてきたのか
- ・どのような未来を望んでいるのか

まで見えてきたときです。

この部活動・サークル活動に所属する女子大学生ペルソナ集は、そのためのキャラクター構築資料として利用できます。

この資料には、外見やプロフィールだけでなく、恋愛観、価値観、人間関係、過去の経験、将来への不安、行動原理などが整理されています。つまり、「その人物がどういう感覚で世界を見ているのか」を考えるための材料が含まれています。

特に部活動やサークル活動は、人物の個性が強く表れやすい環境です。

同じ大学生であっても、

- ・勝負にこだわる人
- ・仲間との時間を大切にする人
- ・表現活動に情熱を注ぐ人
- ・技術を磨くことに喜びを感じる人
- ・誰かを支えることに生きがいを見出す人

など、所属する活動によって価値観は大きく変化します。

そのため、部活動やサークル活動はキャラクターの行動原理を作るうえで非常に有効な要素になります。

創作で人物が似通ってしまう原因の一つは、「性格だけでキャラクターを作ること」です。

例えば、

- ・明るい
- ・おとなしい
- ・真面目
- ・優しい



という説明だけでは、人物同士の違いが生まれにくくなります。

しかし、

- ・何に情熱を注ぐのか
- ・どんな経験で傷ついたのか
- ・どんな夢を持っているのか
- ・何を守ろうとしているのか

が加わると、同じ明るい性格でもまったく違う人物になります。

キャラクターにリアリティが生まれるのは、そうした背景があるときです。

また、この資料は「完成済みキャラクター集」ではありません。

重要なのは、そのまま利用しないことです。

例えば、

- ・価値観だけ参考にする
- ・恋愛観だけ参考にする
- ・過去の経験だけ参考にする
- ・複数の人物を組み合わせる
- ・別の部活動同士の特徴を混ぜる

など、自由に再構成して構いません。

むしろ、そのまま利用すると人物像が固定化され、作品ごとの差別化が難しくなります。

キャラクター作成で重要なのは、「現実を再現すること」ではなく、「現実らしく感じさせること」です。

例えば、

- ・なぜ努力を続けるのか
- ・なぜ仲間を信じるのか
- ・なぜ恋愛に慎重なのか
- ・なぜ夢を諦められないのか
- ・なぜ失敗を恐れるのか

といった感情の理由が見えるだけで、人物は急激に立体化します。

また、この資料は主人公だけでなく、友人、ライバル、先輩、後輩、恋愛相手、チームメイトなどのサブキャラクター作成にも役立ちます。

物語の世界観は、主人公だけで成立するものではありません。周囲の人物にもそれぞれの価値観や人生が感じられることで、作品全体に厚みが生まれます。

さらに、この資料には成功体験だけでなく、失敗体験、弱点、将来不安なども含まれています。

創作初心者ほど、魅力的な人物を作ろうとして欠点を消してしまう傾向があります。しかし、人間は不完全だからこそ共感されます。

進路への迷い、人間関係の葛藤、恋愛への不安、自信と劣等感の揺れなどがあることで、キ



ペルソナ図鑑

キャラクターは「設定」から「人間」へと変わっていきます。

また、この資料自体は創作的要素を含む人物資料です。

実在する女子大学生を調査・分析した統計資料ではなく、「こういう人物はいそうだ」と感じられる創作的リアリティを目指して構成されています。そのため、現実の人物を分類したり分析したりするための資料ではありません。

この資料は、「人物を決めつけるため」のものではなく、「人物を想像するため」のもので

す。キャラクター作成で最も危険なのは、「設定だけで人物を書いた気になること」です。

人間は肩書きでは動きません。価値観、夢、不安、友情、恋愛、挫折、憧れによって動きます。

この部活動・サークル活動に所属する女子大学生ペルソナ集は、「部活動設定資料」ではなく、「青春を生きる若者たちを立体的に描くためのキャラクター構築資料」として利用してください。